



凜として

長江プライド「当たり前のことを当たり前」

令和5年4月14日(金) 第1号(特別号)



家庭・地域とつながり、「長江プライド」で誇りある学校に！

いよいよ令和5年度がはじまりました。

穏やかな春の風が心地よくそよぐ4月7日に69名の新入生を迎え、全校生徒203名による長江中学校の令和5年度がスタートしました。教職員一同一丸となって、生徒一人一人が安心して生活でき、豊かな学びの実現を目指し、指導・支援をしていきます。今年度も保護者の皆様、地域の方々のご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「そうぞう」「情」をキーワードに、凜とした「長江プライド」を継承・深化させ、けじめある学校生活の中で、子どもたちが生き生きと活動する、輝く学校となるよう頑張っておりまいますので、この一年どうぞよろしくお願い申し上げます。

《HP校長あいさつから》

本年度も昨年度に引き続き、学校教育目標を「凜とした元気・感動・温もりのある生徒の育成」と掲げました。今年度は、広島県教育委員会「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」研究指定校として、3年目(指定最終年)を迎えました。中学校区の取組として、“小中9年間を見据えた総合的な学習の時間”や“小中の繋がり”“地域との繋がり”などに一層取り組み、「学びを探究し、未来を“そうぞう”する生徒」を育成していきたいと思ひます。

注“そうぞう”とは「想像」「創造」の二つの漢字からなる

また、今年度も昨年度に引き続き、広島県教育委員会「不登校SSR推進校」の指定を受け、SSR(スペシャルサポートルーム)「にじルーム」を設置し運営していきまいます。ここでは“居場所づくり”“絆づくり”を軸に生徒の社会的自立に向けた支援に取り組んでまいります。

★ 令和5年度のキーワード『情』

人生を豊かに生きている人の共通点に「温もり」、すなわち全ての人に対する温かい思いやり、優しさがあります。では、その優しさとは何か。私が思う優しさは、太宰治が河盛好蔵にあてた書簡にあります。太宰はその中で「人の寂しさ侘しさ、つらさに敏感な事、これが優しさであり、また人間として一番優れている事ぢやないかしら」と書いています。すなわち、「人の痛みや悲しみをを感じる心を持っている」ということです。

《4/6 始業式から》

2, 3年生のみなさん。進級おめでとう。2年生は、長江中学校の真ん中をつなぐ中堅の学年として、3年生は最高学年として、“長江プライド”をもって大いに頑張ってもらいたいと思ひます。そして、昨年度同様「学びの風土づくり」三原則に取り組み、当たり前のことが当たり前に行きとることにプライド(誇り)をもつ長江中学校の生徒であつて欲しいと思ひます。夢と志を抱き、未来へ挑戦していきましよう。

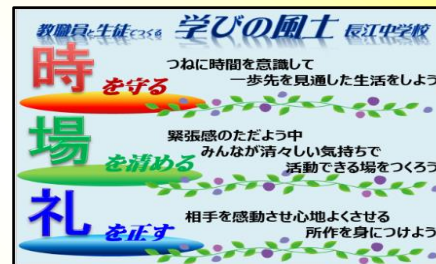
《学校教育目標》

凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成

- (1) 『長江プライド』: 当たり前のことを当たり前
- (2) 『情』: 「温もり」「相手意識」
全ての人に対する温かい思いやり、優しさ
- (3) 『そうぞう(想像・創造)』: 未来への挑戦
「探究(最適解を...)」「主体性」「協働性」

(3) 未来への挑戦“そうぞう”

志→「長江の未来を想像し、
新たな価値を創造していこう」
必要な力「探究力」「主体性」「協働性」
夢→「自分を信じよう」
必要な力「主体性」「読解力」「語彙力」



皆さんへのお願い

After コロナ 基本的にマスクの着用は求めません。(感染リスクの高い学習活動などは対策必要)
☆3つの行動
①手洗い ②咳エチケット
③身体の調子を伝えよう
☆3密(密閉・密集・密接)の回避



69名の新入生を迎える



入学式での新入生の大きな声での返事やきちんとした態度、また、新入生を代表しての川口莉穂さんの誓いのことばは、とても立派なものでした。意気込みが感じられ、心強く思ひました。本校で取り組んでいる「長江プライド」の伝統を立派に引き継ぐとともに、新たな伝統をスタートさせてくれるものと確信しました。誰もが気持ちよく過ごせる凜とした学校をともに創り上げていきましよう。君たちのすべてに大きな期待を寄せています。

- ・「過去と他人は変えられないけれど、未来と自分は変えられる」
- ・「散歩のついでに富士山に登った人はいない」(理想や目標は漠然とではなく、具体的に明確に持たなければ達成できない)
- ・「人が優しくするのは、優しさが返ってくるからではなく、優しくされた人もみんなに優しくなるからです」
- ・「優しい言葉はたとえ簡単な言葉であつてもずっと心にこだまする」(マザー・テレサ)

